

子どもが育つ世帯の問題解決を



NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事長

赤石千衣子



【あかいし・ちえこ】

非婚のシングルマザーとして当事者団体の活動に参加。婚外子差別の廃止や夫婦別姓選択制などを求める民法改正の活動、反貧困ネットワークにかかわる。反貧困ネットワーク世話人、『シングルマザーのあなたに』（現代書館）など編著書多数。

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ <http://www.single-mama.com/>

ひとり親家庭では、経済的な貧困、社会的な孤立がいつそう深刻だといわれています。シングルマザーの当事者団体、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事長の赤石千衣子さんに、ひとり親家庭の現状、求められる居場所づくりについて聞きました。

経済的貧困から時間の貧困へ

編集部 初めに、ひとり親家庭の実態について教えてください。やはり一番深刻なのは、経済的な問題でしょうか。

赤石 そうですね。経済的な困難は

もつとも大きいですが、さらに「時間の貧困」があります。働いて、子育てをして、家事もして、いつも時間がない。そうすると、睡眠時間も少なくなり、健康状態も悪化しています。

編集部 かなり長時間働いているのですか？

赤石 帰宅時間の全国統計をみると、母子・父子世帯ともに午後6時から8時が一番多いです(図1)。でも、もつと長く働いている人もいます。

長く働く分、子どもと接する時間は短くなります。仕事を安定させなければ、くらしは安定しないので、すごく葛藤があると思います。

編集部 親の帰りが遅いと、子どもたちは一人でご飯を食べることになりますし、生活習慣の乱れも心配です(図2)。

赤石 そうですね。歯みがきを1日2回以上する子どもは、ふたり親家庭だと68・8%ですが、ひとり親家庭では55・4%というデータ※1もあります。

編集部 そうやって懸命に働くひとり親家庭にとっては、子どもの病気が気がかりでしょうね。

赤石 公的な病後児保育は各自自治体にあると思いますが、人口が多い地域でも、定員が10人に満たないとか。イン

※1：内閣府「親と子の生活意識に関する調査」報告書(2012年5月)より。

図1 就業している、ひとり親世帯の親の帰宅時間 (単位: %)

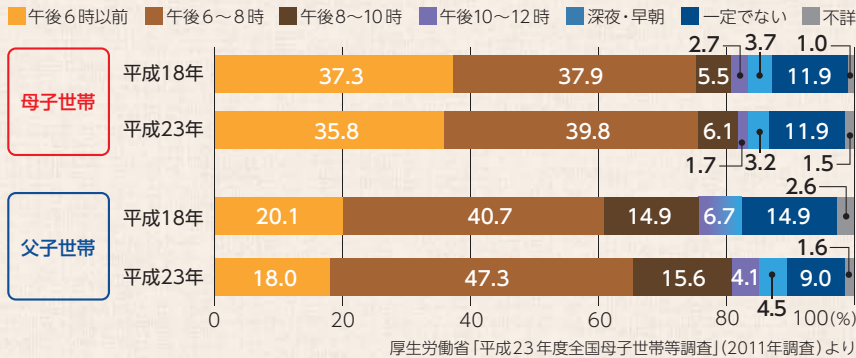
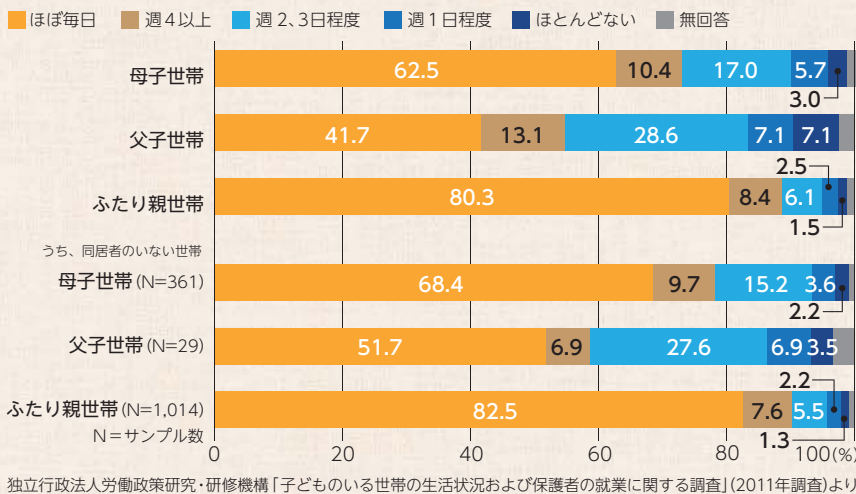


図2 子どもといっしょに夕食をとる回数 (単位: %)



フルエンザがはやってきている時期は、さすがに満員になります。
病後児保育を利用するとしても、熱を出して、保育園から呼ばれて仕事を早退して、一番大変な1日、2日は、仕事を休まなくてははいけません。そうしたら、やっぱり職場には嫌がられますよね。

編集部 職場の子育て支援も十分でない。
赤石 それ以前に、幼い子どもがいると、面接にも至りません。「ひとり親家庭だったら、子どもが病気のときは休むでしょう」と、書類の段階で、はねられます。たとえ面接にこぎつけても、いの一歩に聞かれるのはそ

のことです。

だから、面接のときには、「おばあちゃんがいまいます」とか、「残業のときも親族が見てくれます」とか、あるいは「病児保育・病後児保育に登録しています」といった答えを用意するようになっています。ワークライフバランスは、本当はひとり親に一番必要なのです。

福祉への不信感を抱えて

編集部 しんぐるまどあず・ふおーらむに相談してくるのは、どのような状況の方が多いのでしょうか。

赤石 いろいろな事情の方がいますから、一概にはいえません。ちよつと前までは、別居中で調停をどう乗り切るかといった相談が多かったと思います。

今は、生活の困難であるとか、「子どもを叩きそうになることがつらい」といった相談が増えています。うつ状態だと思いつめていられる方もいらっしゃいます。

編集部 そういふ人たちは、役所に相談しないのでしょうか？

赤石 男性との付き合いをしている場合に、それが児童扶養手当の不正受給扱いされてしまうこともあります。

親と同居していると、親の収入によっては児童扶養手当が受けられない場合もあります。
やっぱり、プライベートなところを突っ込まれて、挙げ句に支援を切られるとなると、不信感が生まれます。もう二度と行きたくないという思いを持ってしまふのです。

編集部 そうなんです。

赤石 困難であるほど、役所の対応で傷ついている人も多し。書かれているのに使えない制度が結構あるんです。例えば、日常生活支援事業のヘルパーを安い料金で派遣する制度は、とても助かる制度ですが、実際には年間の利用が10件にも満たない県が全国で15もありません。

ある子育て支援のNPO団体では、毎日10件、ひとり親の残業に対応してヘルパーを派遣しているそうです。年間では約3千件です。ただ、同じヘルパー派遣の公的な制度が、年間10件どころか、まったく使われ

ていない県もあります。サポート体制がひとり親家庭の実状に合っていない、予算が少ないなどの理由はありますが、書かれているから期待したのに、実際は使えないっていうのはがっかりしますよね。

子どもの支援に必要な視点

編集部 赤石さんたちはどのような場づくり、支援を考えているのでしょうか。

赤石 大きく分けると2つあります。まずは、自分で情報を得て、必要な力をつけていけるママたちのほうが多いので、その方たちには交流の場をつくっています。同じ状況の方と出会い、ほかの人の体験を聞くことで仕事を探し、自分の道を探ることができていく。もう少し手厚いサポートが必要な人には、パーソナルサポートをします。食の支援や、必要であれば、役所などへの同行支援もしています。

編集部 最近話題の子ども食堂についてはどうですか？

赤石 子ども食堂は、すばらしいと

くみだと思います。子どもたちが、「自分は孤独ではない」「助けて」といったときに助けてくれる大人が社会にいる」と思えるようになるのは、いいことですよ。同時に、かわる大人たちにも、自分の地域を変えていくきっかけになる。

一方で、子どもを支援するという視点だけではうまくいかないと思います。結局、子どもが育つ家庭が良くならないと、問題は解決しません。子どもの貧困というのは、世帯の貧困です。しかも、シングルマザーなど多くの女性が貧困を抱えている。根本的には、就労の問題でもあります。

編集部 子育ての環境を良くする支援が必要だということですね。

赤石 民間のみなさんの力で、各地に子どもたちを支援する居場所が広がるのはいいことです。だけど、国や自治体の貧困対策が、居場所づくりに補助金を出すことだけで事足りるでしょうか？行政には、子どもの育つ世帯の問題解決、収入増をどう実現するかという視点がないと。

行政が、それだけやっておけばいい

と考えるような子ども食堂であつてはいけないと、私は思います。親が何を抱えているのか。有効な就労支援がないのか。親が低学歴だったら、高卒資格を取得する道はないか。保育サービスがあれば、就労できるようになる場合もあります。

そういうことにつなげていくためには、ソーシャルアクション^{※2}が必要です。子どもの貧困対策がばんそうこうを貼るだけの対策にならないよう、私たちは常に検証しながら、すすんでいきたいと思っています。

信頼貯金を積みましよう

編集部 子ども食堂に来る人は本当に多様で、始めてはみたけれど、どこまで生活に踏み込んでいいか悩む人がいるかもしれません。

赤石 例えば、子どものことを思って離婚したのに、「我慢が足りない。子どもがかわいそう」といわれたり、シングルマザーが最も嫌いな言葉ですが、「夫の帰りが遅くて、うちは母子家庭みたいなものよ」とか、そんなことをいわれたら心を閉ざしてしまいま

すよね。

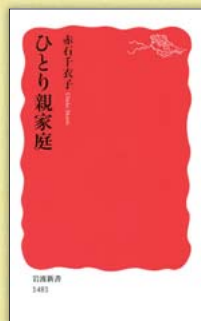
多様性を認めて、相手の立場になって考えること。子ども食堂が新しく増えてきたら、そのための学びの場も必要でしょうね。困難を抱えて食堂に来る人たちの心を開くためにも「信頼貯金」を積んでいくことが大切です。

編集部 ゆっくり一人ひとりと向き合って、相手が信頼して話してくれる関係をつくっていくということですね。本日はありがとうございました。

赤石千衣子さんの 著書をプレゼント

『ひとり親家庭』
(岩波新書)

3名様



本誌綴じ込みハガキにてご応募ください。

※2: 世論を喚起するなどして立法・行政機関に働きかけ、政策・制度の改善をめざす組織行動(大辞林第三版より)。